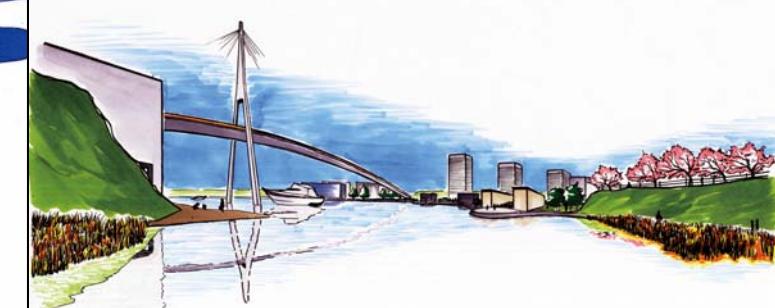


「輪・環・和」

- ・忍び寄る水害リスクの高まりへの対応
- ・省資源・省エネルギー・低炭素消費型の地域構造の再構築
- ・川とまちの融和、自然との共生

～やわらかな現代的輪中堤づくりと徒歩圏域の生活圏づくり

～水運と鉄道による新たな交通ネットワークづくり



今後高まる水害リスク、また地震水害に備え、既存堤防に加え、二重三重のフェールセーフとして現代的「輪中」を市街地に形成する。河川で囲まれた区域を「大輪中」、それを分節した「中輪中」、さらに分節した「小輪中」と階層的に形成する。水害が発生したとしても被害を極小化する。

中輪中の圏域は既存の地域単位を重視して設定し、各輪中の境界には輪中堤を設定する。輪中堤は、緩斜面のオープンスペース、耐水建築、拠点的高台化、敷地単位の土盛り等、地域の特性に応じた柔軟性の高い方法、デザインとする。小輪中を境界とする圏域は、徒歩圏域の生活圏となる。

交通ネットワークについては、環境負荷の小さい水運を本格的に復活させる。中川、荒川、中川放水路を広域の交通軸と位置づけ、鉄道駅との連結を図る。輪中内では、高度経済成長期に暗渠化された用水を復活させ、生活の中で水の恵みを感じる生活空間とする。基幹的用水（西井堀）は、中輪中の新たな軸、3つの小輪中を連結する軸と位置づける。

各小輪中には、西井堀と輪中堤の交差点付近に、拠点的空間整備を行い、緩斜面の輪中堤、西井堀の水の溜り場、そして小輪中の生活中心空間としてコミュニティへのサービス施設を設ける。また、西井堀にはケーブル船を就航させ、小輪中間の往来を支える地域の新しい交通インフラとする。

西井堀は、水位を下げ、触れる水空間とする。西井堀を基幹用水とし、そこから枝分かれする用水路をまちに巡らせ、まち全体で水を感じられるようにする。輪中堤の緑地空間とあわせ、水と緑のネットワークを形成し、荒川を吹く海陸風をまちに呼び込み、高位の風の道を形成する。

また、西井堀、および、用水の水は、気温との温度差を利用した熱交換媒体として利用し、低炭素型社会の一翼を担う地域のインフラと位置づける。また、不圧地下水との循環を行い、水の有効利用を図る。

中川の七曲りは、水上からの景観は、変化と連続性に富み、世界の大都市の中でも有数の美しさを誇る線形である。中川の沿川に位置する都市利用転換を待つ大規模工場跡地で拠点的な空間整備を行う。整備では、川の水を引き込み、水の恵みを生かした賑わいを創出する。また、この50年間断絶してきた両岸を一体的な空間として取り扱う。

